

急流のように車は流れる

平国道路開通

交通量調査

とき 五月十七日
 (午前七時から午後七時まで)
 午後七時まで
 一時間平均三二七人の人と車が、国道三号線を往復して流れている。
 人はその間を縫って横断し、あるいは車のうずの中に泳いでいる有様。実に薄水をおもひ。
 来年になれば今の倍になるだろうと予想されているから、なかなか普通乗用車 一五〇 一六三
 普通自動車 一三三 一四三
 軽自動車 三二 三八
 原付二輪車 三八六 三六六
 原付車 三一一 三三八
 歩行者 五八三 五八五
 計 二、二五二、二二二

上りと下りの合計約四千五百、交通安全協会役員
 六車孝吉 白浜哲哉 林田輝行
 長浜一郎 浜本博昭 若島一郎
 竹田祐春 山崎博志 沢井武市
 (順序不同)

平国は町道一本と林道としての町に陳情して、昭和三十六年度支線が一本あっただけで、約二十町歩の田畑の耕作、生産物の搬出に、耕機も使えず多大の労力を費していたので、平国の上下区環道を開通して、良い部面が

平国は町道一本と林道としての町に陳情して、昭和三十六年度支線が一本あっただけで、約二十町歩の田畑の耕作、生産物の搬出に、耕機も使えず多大の労力を費していたので、平国の上下区環道を開通して、良い部面が

こんな交通事故がありました

去る五月三十日公民館で平国赤崎を含めた連合青年団の総会が、来賓田中興副議長、斎藤町長らの出席のもとに行われた。驚ろいたことに百余人の男女青年が集ったこと、各部が計画している目標をそれぞれ自信をもって力強く発表してきている。

平国は町道一本と林道としての町に陳情して、昭和三十六年度支線が一本あっただけで、約二十町歩の田畑の耕作、生産物の搬出に、耕機も使えず多大の労力を費していたので、平国の上下区環道を開通して、良い部面が

平国は町道一本と林道としての町に陳情して、昭和三十六年度支線が一本あっただけで、約二十町歩の田畑の耕作、生産物の搬出に、耕機も使えず多大の労力を費していたので、平国の上下区環道を開通して、良い部面が

青年団長になつて

津奈木町青年団長 門崎敬一

このたび、役員改選によって団長に選ばれましたが、なにしろ人の前に出て話すのが苦手であります。その上指導力にも自信がありません。私共青年団に入団して四年になりますが、団活動のことを真剣に考えれば考えるほどむづかしくなります。しかし団長となつた以上、団員の期待に添うて少しでも魅力ある青年団にしたいと思つています。都会へ流出し、減少している農村に残っている青年団員だけでも

去る五月三十日公民館で平国赤崎を含めた連合青年団の総会が、来賓田中興副議長、斎藤町長らの出席のもとに行われた。驚ろいたことに百余人の男女青年が集ったこと、各部が計画している目標をそれぞれ自信をもって力強く発表してきている。

去る五月三十日公民館で平国赤崎を含めた連合青年団の総会が、来賓田中興副議長、斎藤町長らの出席のもとに行われた。驚ろいたことに百余人の男女青年が集ったこと、各部が計画している目標をそれぞれ自信をもって力強く発表してきている。



平国農道落成記
 平国農道は、水田地帯の中央を走り、一部舗装の立派なもので、従来最も不便だった宇土地区、下地区、水田地帯は見違える様に便利に、地城となり、平国地区の今後の発展が各方面から期待されている。この落成式が五月二十三日平国小学校校庭で行われた。参議院議員沢田一精氏、県副議長田中興次氏も出席、平国始まって以来の喜びにあふれる式典が開かれた。この道路の開通までに尽力した人

青年団の新役員

- 団長 門崎敬一
- 副団長 斎藤博文 吉野美津子
- 文化部長 福崎靖夫 岡松千代子
- 文化部長 伊藤健夫 沢田正勝
- 体育部長 福島伸佳 林守
- 産婆部長 篠原保智 古川伸子
- 女子部長 丸山富枝 長原サエ
- 赤崎青年団
- 団長 篠原保智
- 副団長 伊藤道夫 伊藤敬子
- 文化部長 吉野公敏
- 体育部長 伊藤勝海
- 計 吉野美津子
- 平国青年団
- 団長 野崎健男
- 副団長 福山邦彦 浜田とも子
- 体育部長 平野俊次
- 文化部長 吉野誠一
- 女子部長 村上さち子
- 計 福山さみ子

婦人会役員

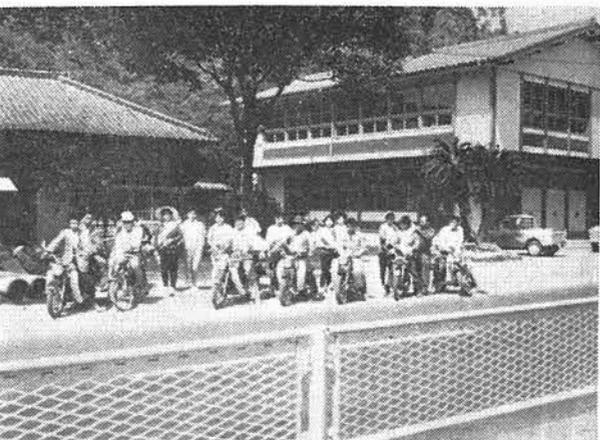
- 津奈木婦人会
- 会長 斎藤たま
- 副会長 岡松かき 藤本文江
- 計 藤本文江
- 赤崎婦人会
- 会長 千々岩ちきの
- 副会長 開田まさえ
- 岩崎とも 佐々木ちよ子
- 石田みづる
- 平国婦人会
- 会長 平野しえ
- 副会長 西おしえ
- 福山みづえ
- 計 浜田つじゆ

津奈木

発行所 津奈木公民館
 津奈木町 24番 松 壮
 電話(津奈木) 24番
 編集人 岡松 緒方 印刷所
 印刷所 緒方 印刷所
 八代市通町
 電話(八代) 代表 3118番

身近かな参議院議員選挙

今度の選挙は、参議院議員選挙だから、県民の関心がうすいとか、もりのりが足りないとかで、県の選挙管理委員会でも、その対策に大わらわです。熊本日日新聞社で、そのことを取り上げて、選挙もの上げ運動を起すそうがあります。本町ではご承知の五月十七日に青年団員が役場に集合して、町内を第一回パレードをしました。なぜ無関心か、おそらくそれは直接身近な人ではない、直接私達の幸福・生活に繋がりが無いというからでしょう。



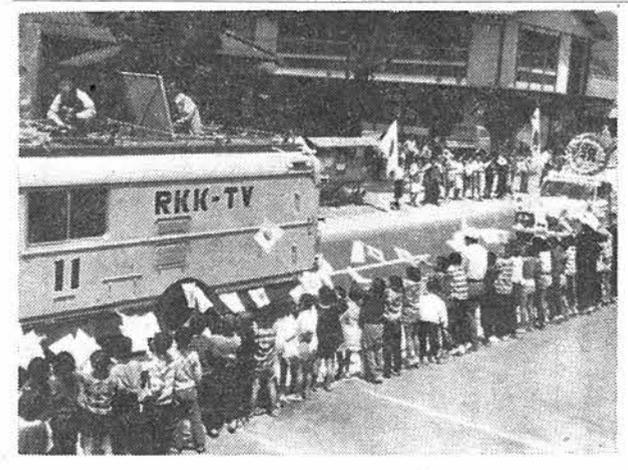
(青年団の明正選挙パレード)

心配される投票率
 このような関係深い選挙であるのに、いさかしく、良い人がいないとか、投票に出られない人が多くはないかと心配されています。しかし津奈木は違う

これまで参議院議員選挙で、いつも郡内でも良い成績をあげています。これはおそろしく利害のことでもながら、国民の義務を果すという道徳問題として考えているからだと思います。七月四日は

さておき、投票いたしました。一年二組 大淵利恵子
 明るく正しい選挙
 明るく正しく選挙するためにラジオやテレビで注意していますが、またきまつて選挙違反のことを放送します。お金をやつたり、ごちそうをしたりして、相手の人をひきつけ、当選しようとする機会をつくります。

もよほはないかと思ひます。私達の六年の時の社会の本にのつていた選挙の仕方は
 ① 進んで、社会全体の幸福のためにつくられる公平な人
 ② 政党の主張をよく見きわめて選ぶ。代表者が決つてからは自分の選んだ人が、人々のためよく働いてくれているかを見守り、次の選挙にはどうするか
 ③ もし、選んだ人々の考えにそむいて、正しくない行いをするような人だったら、止めさせることができる。このようなことが本にのつていました。
 大人が選挙違反などの悪いことをすれば、子供も大きくなったらそうなるかもしれません。これこそ明るく正しい推進運動が必要だと思います。



(公民館前を通る国道開通祝賀パレード)

本町をゆさぶる国道三号線

本町をゆさぶる国道三号線
 本町をゆさぶる国道三号線
 本町をゆさぶる国道三号線

本町をゆさぶる国道三号線
 本町をゆさぶる国道三号線
 本町をゆさぶる国道三号線

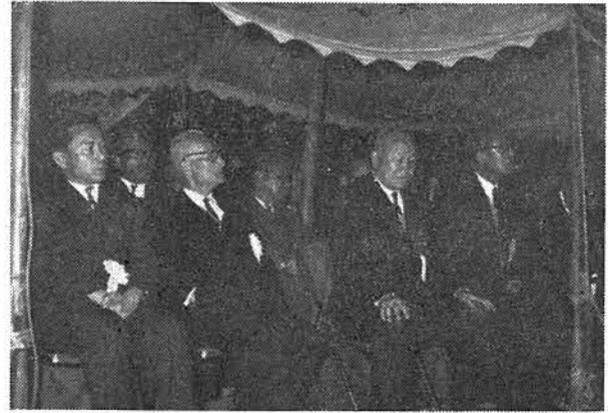
本町をゆさぶる国道三号線
 本町をゆさぶる国道三号線
 本町をゆさぶる国道三号線

本町をゆさぶる国道三号線
 本町をゆさぶる国道三号線
 本町をゆさぶる国道三号線

- ### 体育指導員
- 成田忠夫 松本好栄
 - 山口勝郎 田村正
 - 農山保義 平井徳子
 - 神崎康輔 西川清輔

海よ！ さよなら

汐止とは？



海のためには堤防をきずいて、これまで海水の出入を自由にして、おたまたまし、海水が一灌も堤防内に入らないようにする作業が汐止である。

この汐止によって、永久に海とお別れして陸地に衣がえるのである。

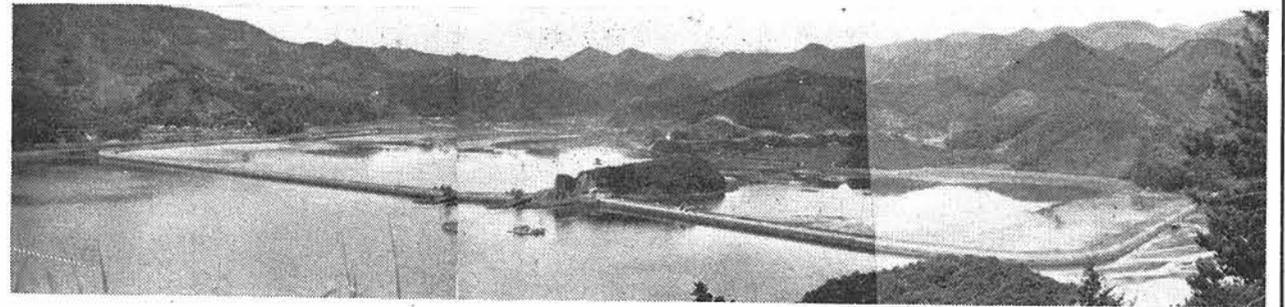
何万年か何十万年か知らないが海であったところが陸地になるのである。

昭和四十年三月二十三日、この日のためにあらゆる困難とたたかてきたともいえる。式は汐止めする現場の横の堤防の上で午前五時から、電灯の光のもとで行われた。

前村長斎藤藤吉氏の写真の前で寺本知事や九州農地局長など多数来賓臨席のもとに、この千代塚とこしえに安泰であるように、本町がいち榮えに榮えるようにと願いをこめて。

汐止作業

海水が自由に出入りしていた門は、がん大なコンクリート柱によって十四に区切られている。ここではその一しきりにして説明してみよう。先ず十七センチ位の角材を下から一列に二十六本積み上げ、その縦目には板を釘つけて水の入るのを防ぐ。更に土破三〇〇俄を内側に下ほど広く積んで角材を補強する。その上にサンドポンプで泥水



汐止式角材落しの儀

万円、負担別になると、国費二億三千万円、県費六千万円、町費は四千九百万円、それだけのお米がとれるか、米以外の作物もお米に換算すると約四千九百万円になろうというのである。

善工 昭和三十四年完成 昭和四十一年

左手も使おう

人体には左右二あるものは、平均して使われている。眼、鼻の穴、左右の足振り、しかし手だけはそうでない。左きき右ききとあるのはそれ、これを心がけて同じように鍛えれば、握力、押す、引く、投げる力は同じようになる。同じであればわれわれの生活にプラスすることが多い。野球、自動車運転等。

先生の異動

左の先生方が転出されました。水の間お世話になりました。厚く御礼申しあげます。(敬称略)

平岡小へ 飯崎準一 大野小へ

久木野小へ 山口勝利 津奈木小へ

湯浦小へ 岩木勇夫 山口小へ

水俣三小へ 淵上輝子 西直明 赤崎小へ

八代千丁へ 谷口多恵子 坂上慶子 湯浦小へ

湯浦中へ 橋口ヒサエ 岩本紀子 水俣二小へ

湯浦小へ 都田一 赤崎小へ

津奈木小へ 西直明 赤崎小へ

湯浦小へ 岩本立子 大童昭雄 天草内之原小へ

白木小へ 寺本剛 平岡小へ

湯出小へ 本郷弘弘 西野雅子 阿蘇山西小へ

湯出中へ 藤田亨 津南中へ

津南中へ 古川清澄 水俣三小へ

公民館運営審議委員

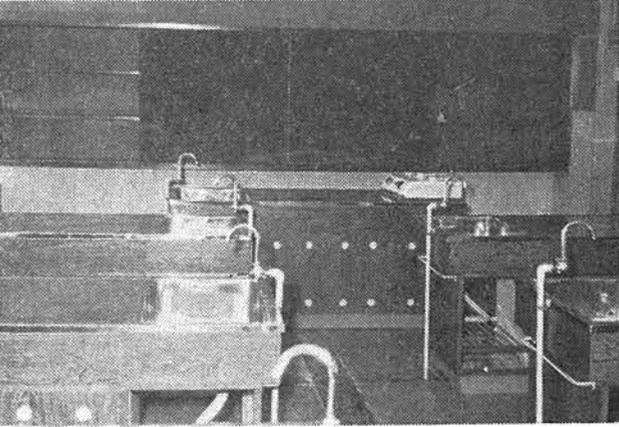
- 昭和四十年津奈木町公民館運営審議委員は次の通り
- | | | | |
|------|------|-------|-------|
| 福村広人 | 松原飛義 | 志崎 鳥末 | 山崎 好 |
| 福島峯雄 | 溝部康世 | 釜 忠彦 | 田上二智 |
| 田村 正 | 福島孝任 | 千々岩頼母 | 齊藤たま |
| | | 西 保馬 | 緒方 洋 |
| | | | 以上十五名 |



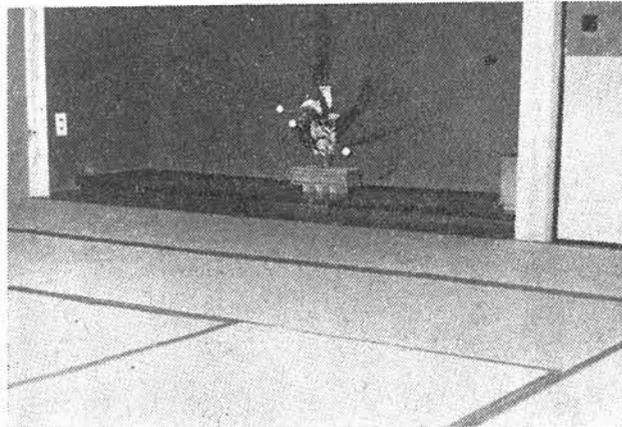
(公民館全景)

千代塚に「のぼり」

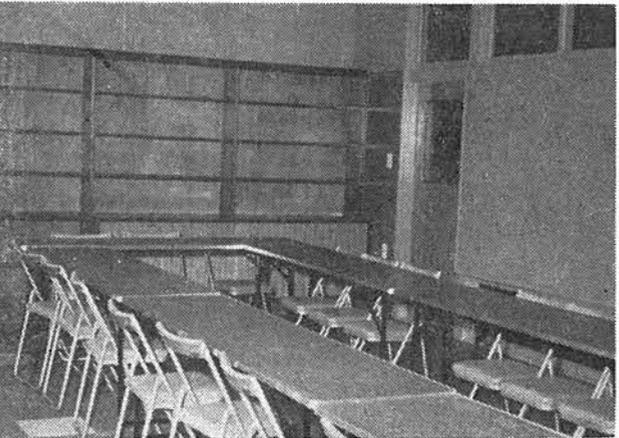
毎年の千代まつりに懸賞品として「のぼり」と同じ大きさののぼりをお金を贈ってくださる石田昭を慕った。町長さんや役場公民英君が、こんどは「孝子千代の館の人たちも、いつも褒らぬ石田」と褒めぬいた大きな(節句の)君の意志に感心している。



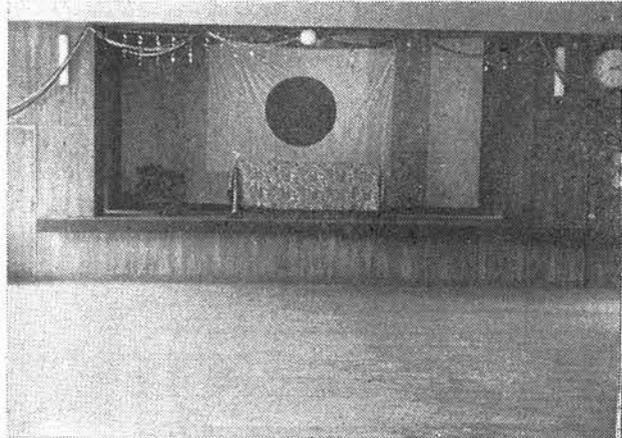
調理室 七台の調理台が二列に並んでいる。料理講習、栄養教室も結婚式の料理もここでやる。



和室 和室が二室ある。川に面して、樹木の緑を裾にした長半岩一帯の岩が築山のように見える。



図書室 書物を入れていない前は会議室に使った。ゆくゆくは郷土に関係あるものをも陳列する



ホール 大集会場、講演会講習会、結婚式の祝宴場などに使われる。

千代塚につづい

津奈木婦人会では、かねて千代塚が国道三号線開通によってクロ一ズアツンされたため、美化しようというので、四月二十三日、二百本あまりのつじ苗を千代塚の周りに植えた。(苗代二万有餘円も婦人会の財産から出した。)

公民館日誌 (五月分)

- 二日 結婚式
- 六日 鉄道用地関係者会
- 七日 選挙管理委員会
- 八日 農業委員会議員総会
- 一日 農協職員会 民生委員会
- 二日 柑橋同志会 生ブクチン
- 三日 婦人会役員会
- 四日 結婚式 果樹経営打合せ
- 五日 交通安全協会総会
- 七日 区長会
- 八日 上棟式
- 九日 遺族会役員会
- 二〇日 森林組合総会
- 二一日 教育委員会 遺族理事会
- 二二日 津小研究会
- 二四日 身体障害者会
- 二五日 栄養教室
- 二七日 土木委員会 体育指導委員会
- 二八日 町議会
- 三〇日 津奈木小PTA総会